

「気仙沼通信」も第10回目

「気仙沼通信」も第10回目になりました。一方的に発信していて申し訳ありません。

反応も様々です。この人はきっと被災地に関心があるだろうと思っていた人からは、何の反応も無し（ハズレ）。また、思ってもみなかった人から、被災地への思いや励ましの便りをもらいました（当り）。この場を借りて、心からお礼を申し述べます。

「通信」も5回ぐらいで、もうネタが尽きるかと思いました。しかし、日々の新聞を読むことと、仕事中に極くまれにですが、ボケッと何かを考えることで、テーマが湧いてくるようになりました。ちなみに発行部数は、メールで約100人、郵送で約90人です。

ごく一部の読者の方からは、「上田さんは気仙沼に一体何のためにやっているのか？」という疑問があるみたいです。今回のテーマは、その疑問を拡大するのではないかと心配です。

被災地でのコンサート

さて、本題に入ります。私は歌謡曲やクラシック音楽が好きなので、東京に居る時もコンサートに通っていました。東京のコンサートでは、演奏家が主役で、聴衆は音楽を聞かせてもらっているという雰囲気です。

被災地には多くの演奏家が来てくれて、コンサートが開催されます。ほとんどが手づくりですが、中には普段は聞くことが出来ないような、大物や大家の演奏家が演奏をします。演奏家の多くは、仙台でのリサイタルの前後に、被災地に来て演奏をしてくれるみたいです。被災地では、聴衆が主役で、演奏家は被災者に聴いてもらって、何とか自分の気持ちを伝えようと、心を込めて演奏します。

私はここで、熊谷育美（ポピュラー）、アキラ・タナ（ジャズ）、田崎悦子（ピアノ）のコンサート等を聴きました。

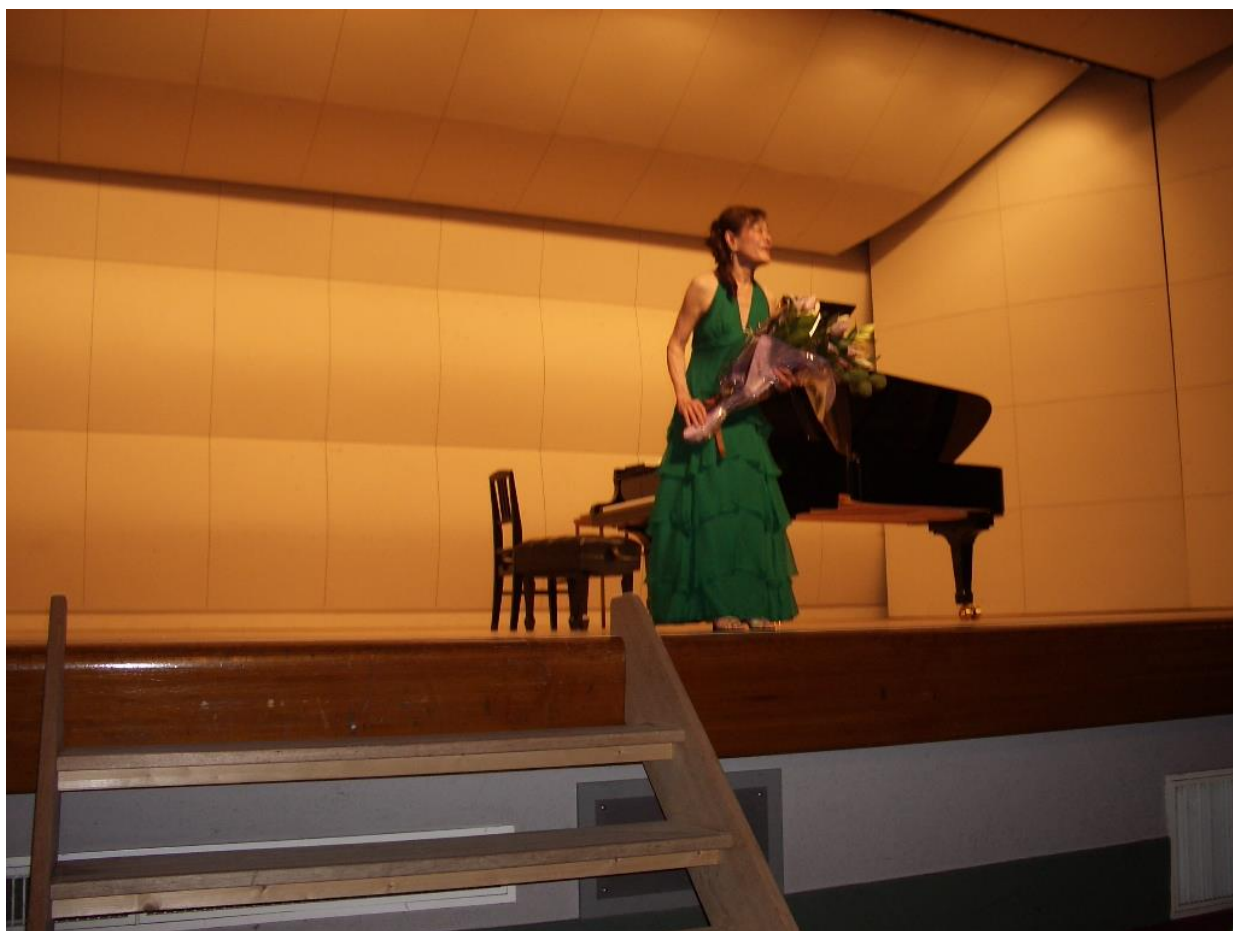
私は、東京でのコンサートは、ほとんどがC席です。C席は、だいたい1回の後か、2・3階席です。しかし、こちらでのコンサートは、ほとんどが無料で、自由席です。私は、ここぞとばかりに前の方の席で演奏を聴きます。たまに、憧れていた女性演奏家の素顔を見て、後の席で聴いていたら良かったと後悔することもあります。

佐賀県では、県を挙げて被災地にグランドピアノを贈る運動をしています。気仙沼にも2台、市民会館と本吉町のはまなすホール（名ホールです）にグランドピアノが贈られました。

未来の文化芸術の創造は三陸から

宮城県でのコンサートの約9割は、仙台で開催されます。コンサートも仙台への一極集中が進んでいます。新聞を見ていると、たまに仙台のコンサートで、「被災者シート」といって、料金が半額になる席がたまにあります。私は仮設住宅に住まわせてもらっているのですが、一度「被災者シート」のチケットを買ってみようかと思えます。(被災者の皆さん、ゴメン)

気仙沼の人達が、仙台へ行ってコンサートを聴くことは、あまりなかったのではないかと思います。仙台までは、高速バスで片道2時間30分、料金は往復で3,600円掛かります。しかし、今は演奏家がわざわざ気仙沼へ来て、演奏をしてくれます。これらのコンサートが、三陸にいる感受性が豊かな若者達の琴線に触れたならば、10年20年後の日本の文化・芸術の創造は、もしかしたら三陸から起こるのではないかと期待しています。



【田崎悦子さんのピアノコンサートです。(2013年7月14日、気仙沼市民会館)
仙台でのコンサートは有料、気仙沼では無料です。素顔に気を取られていたので、曲目は忘れました。】